

# カラダ ニろ通信

スペシャルインタビュー

阿部 晋也さん (丸吉日新堂印刷)  
エコもビジネスも人との出会いから  
広がっていく

特集

Bhado開発者インタビュー  
薬害からの学びが出発点に







広げると通常の4倍のスペースを使える名刺。写真は阿部さんの実際の名刺。

客さまからのご指摘で、あるとき名前や連絡先だけでなく、ビジネス内容をPRできる情報を入れてみたんです。すると、名刺を渡したときの相手の反応がまったく違って、名刺の持つ可能性に気づきました。今つくっている名刺はデザインもいろいろありますが、最近はこのものもつくっています。」

そう言ってお阿部さんが差し出したのは、四つ折りで、広げると両面合わせて8面ある名刺。経歴や会社の経営理念が、写真やイラストとともにわかりやすく書き込まれています。

「なぜ「E」名刺をつくっているのですか?」と毎回聞かれるので、それなら名刺に書いておくと(笑)。名刺で自分自身をブランディングするイメージですね。

ビジネスをスムーズに行うには、はじめの出会いが大事です。次に会うかどうかは、初対面できに共感が持てたかで決まります。名刺交換の段階で、製品のフオリティや会社の理念などの基本情報や伝われれば、ビジネスの話も格段にやりやすくなるでしょう。名刺に顔写真を入れるのも理由があります。人は同じ顔を3回見ると安心感が生まれ、その人について人と認識するそうです。名刺に顔写真があるのとないのでは、ビジネスがまったく違う次元でスタートすることになります。」

**名刺を環境保護に役立てたい**

阿部さんのつくる名刺が注目されているのは、その斬新なアイデアだけではなく、環境を守る活動、貧困国に雇用を生み出す仕組みをつくったことにあります。E名刺をつくるきっかけはどういったことだったのでしょうか。

「名刺がいかに大切なツールかを実感していたとき、ちょうどキリンビバレッジさんから回収されたペットボトルで名刺がつけられない

ものか、と相談がありました。名刺づくりは、印刷所にとつては利益になりにくい仕事で、うちの会社はいやがりません。それでうちのような小さな会社に話が進んできたのでしよう。これはチャンスだと思いました。ペットボトルでシートをつくっている会社を探し、そこ一緒に試作品を重ねて完成したのが、今も使っているペットボトルの再生紙です。」

完成したのは、白と半透明の2タイプ。2リットルのペットボトル5本から、およそ100枚の名刺ができるということです。

「せっかくなら、もつと環境に貢献できる仕組みをつくりたいと、アウトドア用品メーカーのパタゴニアが窓口になっている「1%フォー・ザ・プラネット」を通じて、名刺売り上げの1%が環境保護団体に寄付される仕組みをつくりました。これが「名刺を買うだけで環境保護に役立つのはうれしい」とお客さまに大好評でした。

この「E」名刺で削減できるCO<sub>2</sub>の量は微々たるものですが、「環境意識を変える」という意味で、大

好評を得ていたペットボトルの「E」名刺ですが、石油の高騰により手に入らなくなるといった危機もありました。

「ある時期、石油が高騰してペットボトルが全部中国に売られ、原料がなくなりました。」

**ペットボトルの次はバナナの茎を原料に**

「再生ペット名刺(半透明)」

**バナナ名刺**

バナナが地球を救う One Planet Paper  
この名刺は廃棄物やアクリルに廃棄物を再利用します。

上はペットボトルの再生紙、下はバナナペーパーでつくった名刺。この他にもオホーツクのホタテ貝や広島島の平和の折り鶴を使ったものなどユニークな再生紙が20種類あります。

## エコもビジネスも人との出会いから広がっていく

スローヴィレッジでも名刺をお願いしている丸吉日新堂は、知る人ぞ知る「エコ名刺」の草分け的な印刷屋さん。人との出会いを大切に、「名刺」を中心にビジネス展開をし現在顧客は6万人。代表の阿部晋也さんに、エコ名刺をつくったいきさつや、仕事への思いをおうかがいしました。



### 「名刺」は人と人をつなげる重要なツール

阿部晋也さんが名刺の大切さを強く意識したのは、お父さまの経営する印刷会社に就職し、飛び込み営業の仕事をごなされていた時期だといいます。

「入社後2年間は毎日1000件、営業でまわっていました。断られるばかりでしたが、お客さまとのかよくなるコツもつかんでいきました。それまでも名刺は大切な営業ツールと思っていましたが、お

あべ しんや 丸吉日新堂印刷株式会社 代表取締役 阿部 晋也さん

北海道内の大学を卒業後、東京の接着剤メーカーに営業職で就職するも、人を大切にしない会社の経営姿勢に幻滅し、半年で退職。その後、北海道に戻って父親が代表を務める丸吉日新堂印刷株式会社に入社し2年間営業職を経験したあと、24歳で代表取締役に就任。人とのつながりを大切に、名刺を中心にしたビジネスを広く展開している。趣味は子どもの頃から続けているサーフィン、釣り、キャンプ、旅行、登山、ランニングなど。

丸吉日新堂印刷株式会社 <http://www.nissinbou.co.jp>



